

松岡 信生 議員

公明党



市民病院

市民病院統合再編に 至らずの場合の将来は

議員 検討委員会で、医師派遣元の神戸大学病院の委員は、このままでは市民病院・済生会病院のそれぞれに、医師の派遣は困難と言及。統合再編に至らなかった場合の医師確保、急性期医療での将来の医療提供の方向性を伺う。

医師の減員により、救急や急性期医療から撤退へ

市 再編・集約化を実現した先進地病院事例では医師の増員がなされ、病院改革を進めなかった病院事例では、医師が減員し、結果的に病床数も減床し、急性期機能が低下した事態となっている。今のままでは、将来的には市民病院も救急を中心とする急性期医療から撤退を余儀なくされる。(森市長)

他の質問 ●新型コロナウイルス感染症対策について ●子宮頸がん予防ワクチン (HPV) 接種に関する取組について ●コロナ禍における検診等について

長尾 明憲 議員

日本共産党三田市議団



市民病院

済生会の負担は三田市が 負うのでは

議員 万が一、今後再編統合という方向で進んだ場合に、済生会の残債を含め何十億、建設も含めると何百億という負担を新たに負う可能性がある。三田市にとってリスクが高いのではないか。

それぞれの立場で急性期医療を守る責任を果たす

市 三田の市民の命、そして市民病院を守る範囲内での責任を負いたい。どのような形になっても北神地域における部分については済生会、ならびに神戸市にしっかりと責任を取っていただくという形で進めたい。(森市長)

他の質問 ●市内小中学校における感染対策について

木村 雅人 議員

日本共産党三田市議団



事業者
支援

小規模事業者応援助成金の 再実施を

議員 小規模事業者応援助成金は5月で終了している。その後も感染拡大が長期化しており収束のめども立っていないため継続的な支援が必要である。小規模事業者応援助成金を再度実施すべきでは。

小規模事業者等への切れ目ない支援を検討

市 特に運転資金等に余裕がなく経営体力の弱い事業者への対策として、国や兵庫県の支援制度を補完する市独自の小規模事業者応援助成金の再実施も含め、引き続き、小規模事業者等に対する切れ目ない支援を検討していく。(甲斐地域創生部長)

他の質問 ●さんだ里山スマートシティ基本構想の策定について ●再生可能エネルギーの導入・普及推進について



令和
3年

9月定例会の結果

8月27日～9月17日(会期:22日間)

市長提出議案 18件
請願 1件
陳情(※陳情は採択しません) 2件



全議員が賛成した議案(可決・同意)

- 予算** 一般会計補正予算(第6号) など予算案件2件
- 条例** 個人情報保護条例の一部改正、自家用有償旅客運送条例の一部改正 など条例案件3件
- その他** 損害賠償の額の決定について、総合学習アプリの取得について など事件案件3件
農業委員の任命について 人事案件1件

議会内容等の詳細は、三田市議会ホームページの「審議予定・結果」をご覧ください。

全議員が継続審査とした議案

- 決算認定** 令和2年度一般会計歳入歳出決算認定について など認定案件9件

賛否の分かれた議案・請願(森本政直議員は、議長のため表決に加わりません) 賛成:○ 反対:× 棄権:—

議員名 件名	盟政会			新政みらい			公明党		日本共産党 三田市議団		市民の会		日本維新の会 三田		無党派		結果						
	今北義明	福田秀章	幸田安司	白井和弥	小杉崇浩	厚地弘行	北本節代	佐貫尚子	中田哲	松岡信生	大西雅子	福田佳則	長尾明憲	木村雅人	水元サユミ	檜田充		美藤和広	肥後淳三	小山裕久	林政徳	井上昭吾	
請願 沖縄戦戦没者の遺骨等が混ざった土砂を埋め立てに使わないよう意見書採択を求める請願書	×	×	×	×	×	×	×	×	—	×	×	×	○	○	○	○	—	○	×	×	○	○	賛成 6 反対 13 棄権 2 不採択



請願第5号 沖縄戦戦没者の遺骨等が混ざった土砂を埋め立てに使わないよう政府および国会への意見書採択を求める請願書

内容 (請願者) 小宮 勇介氏
(請願の趣旨) 沖縄戦の戦没者の遺骨等が混ざった土砂を埋め立てに使わないよう政府および国会に求める意見書を採択する内容。

不採択
賛成 6名
反対 13名
棄権 2名

委員会審査報告より(審議経過)

委員会審査の中で、委員からは、国も遺骨収集には配慮するとあったが、他市議会で意見書提出される中、一向に改善が見られないと思われることから、地方議会としては是正や改善等を示すことは責務であると考えるため、賛成する意見があった。
また、国が土砂の調達先を十分配慮することを表明しており、市議会として国に意見書を提出することは賛同しかねるため反対する意見が、また別の委員から、防衛省沖縄防衛局の局長が遺骨の混入している土砂を資材として使用することはあってはならないと見解を示しており、遺骨収集も法に基づき国の責務において業者を選定し、国会で注視している経緯を含め、反対する意見があった。
採決した結果、賛成少数で不採択と決した。
(経営政策常任委員長 美藤和広)

賛成討論

戦没者遺骨収集推進法では、遺骨収集を「国の責務」と位置づけ「戦没者の尊厳を損なわないよう、丁寧な配慮をして」とあるが、遺骨の判別は業者に委ねられている。いくら業者が配慮するといっても、76年経過した骨は重機で掘れば崩れてしまうこともあり、見ただけでは遺骨か石灰岩かの区別は難しい中、十分な対応が出来るとは思えない。だからこそ沖縄から、全国から意見書の採択が進み、直近では15日に大阪市議会が全会一致で「政令指定都市では初」となる意見書が採択された。人道的な問題として、この請願に賛成。
(日本共産党三田市議団 水元サユミ)